

卓越大学院プログラム現地視察報告書(令和5年度)

卓越大学院プログラム委員会

機 関 名	千葉大学	整 理 番 号	1902
プログラム名称	アジアユーラシア・グローバルリーダー養成のための臨床人文学教育プログラム		
プログラム責任者	山田 賢	プログラムコーディネーター	米村 千代
<p>1. 進捗状況概要</p> <p>・中間評価の厳しい結果を受け、またコロナ禍の制限も緩和されて、学内連携、大学間連携、国際連携、産業界連携等、短期間にもかかわらず精力的に改善がなされている。Digital Humanities(DH)領域における大学院プログラムとして博士人材の育成はおおむね順調に進んでいる。千葉大学内の他の卓越大学院プログラムとの連携もすすめられ、合同運営体制の整備や学生間の共同企画などが開始された。連携大学機関とのカリキュラムの共有化、評価基準の共有化も進んでいる。企業連携のもとインターンシップを中心としたキャリアパスのための育成プログラムも整備された。参画企業の開拓もすすみ、シンクタンクをはじめ大きく拡大がなされている。コロナ禍による渡航制限も解かれ、Oxford DH Summer schoolをはじめ台湾、モンゴル等への派遣も開始されている。</p> <p>学生たちにおいては、各人ごとに研究テーマをしっかりとらえ DH との関係やその応用展開も理解がなされている。デジタル教育に関しても手厚いケアがなされており、e-learning の整備も含め学生から満足度の高い状況である。とくに Oxford DH Summer school は学生にとって、大きな刺激になったという。学生の移動もしやすくなったことから大学間の学生間の交流等に対する期待も寄せられている。研究の進展に合わせてより高度なデジタル教育を求めている。</p> <p style="text-align: center;">【大学院教育全体の改革への取組状況】</p> <p>・大学院学位プログラムとして本事業は展開しているが、関連した新しい自然科学系「情報・データサイエンス学府」の設置準備が進んでいる。また、DH の大学院共通講義の全学展開も進んでいる。本学位プログラムを Joint Degree (JD) 等への発展も検討されたが、JD の制限が強いために現時点では千葉大学以外の連携大学としては学位プログラム等への協力にとどまっている。連携プログラムとしてどのような形、体制とするのかさらなる検討を期待したい。</p> <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <p>事業の完成に向けて、以下の点のコメントを行った。</p> <p>① 大学院教育改革において既存の学府と新設される学府と学位プログラムの関係（どのように卓越大学院が展開されるのか）を明確にしてほしい。</p> <p>② 現時点で想定される（可能性がある）キャリアパスの全体像を学生に提示することで、それに連動する活動（海外交流や JOB 型インターンシップ等）がより効果的になる。</p> <p>③ ロシア等の国際情勢の悪化から、国際連携が東アジア等を中心にされているが、アジアユーラシア・グローバルリーダー育成を本事業は掲げており、ユーラシアを意識してほしい。</p>			

- ④ 学年進行に伴って、デジタル教育も入門レベルからより多様で分野ごとの専門的レベルが必要となっている。それらをどのように教育するのかを体制も含め検討してほしい。DH 領域が新しい分野であり DH 研究領域全体の問題でもあるが、本事業がそのひとつのモデルを提示するものであってほしい。
- ⑤ 千葉大学においては、本事業の DH の学生や関連教員が一定数おり、学生たちはそれを身近に感じている。研究が進むにしたがって、これは重要な研究環境である。しかし、連携大学では、学生の人数も少なく、身近に相談したり質問したりする環境が構築できていないように見える。学生は仕方なく独学になりデジタルの活用をあきらめようと思っている者も出始めている。大学を超えた連携として単にカリキュラムだけではなく教育のための教員連携や web を活用した効果的な相談体制の確立などが望まれる。